

○事後評価のポイント

事後評価では、都市再生整備計画の目標値が達成されたか、どのような課題が解決され、又は残ったか、今後のまちづくりをどのように行うかといった内容を検証します。

(1) 都市再生整備計画の目標

【歴史とやすらぎの農村空間の創出】

- ①歴史的、文化的資産を生かし、都市と農村の交流促進により観光拠点の創出を行う
- ②生活環境の改善により、防災性・安全性の向上により快適に暮らせる街づくりを行う

(2) 目標値の設定

目標	指標	従前値 (16年度)	目標値 (22年度)
観光拠点の創出	地区来訪者数	450	700
防災性・安全性の向上	地区に占める幅4m未満の道路の割合(狭隘道路率)	68.8	35.9
	地区に占める有効消火栓から140mの範囲の割合(消防水利充足率)	50	70

(3) 事業の実施

- ①観光拠点の創出⇒旧高山小学校整備事業、真菜まつり推進事業
- ②防災性・安全性の向上⇒道路拡幅整備事業、有効消火栓設置事業

(4) 目標の達成状況

指標	従前値 (16年度)	目標値 (22年度)	評価値 (22年度※)
地区来訪者数	450	700	923
地区に占める幅4m以下の 道路の割合(狭隘道路率)	68.8	35.9	35.9
地区に占める有効消火栓か ら140mの範囲の割合(消 防水利充足率)	50	70	70

※平成22年度末の見込み値

高山コミュニティーセンター(右近の郷)を活用したイベントの実施等による地区来訪者数が増加、道路改修及び消火栓設置が期間内に完了する見込みであることから、各指標において、目標値を達成しています。その他の効果として、

- ・ 消防活動困難区域が減少した
- ・ 緊急車両を寄付けできない住宅が減少した
- ・ 今後、右近の郷の活用により、高山地区の住民による地区の活性化が期待できる
- ・ 高山コミュニティーセンターの愛称募集により、地区の認知度が高まった

などが挙げられます。

(5) まちの課題の変化・今後のまちづくりの方策

(意見募集の結果、評価委員会の審議を経て確定し、公表します)

前述の指標等によって確認された成果によって、計画策定時点の課題がどのように変化したかを評価、分析します。

この評価により、来年度以降、事業によって得られた成果の活用方法や、残された課題への対応を検討します。